

## May 2017 subject reports

### Japanese B

#### Overall grade boundaries

##### Higher level

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 15	16 - 29	30 - 48	49 - 62	63 - 75	76 - 89	90 - 100

##### Standard level

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 11	12 - 23	24 - 38	39 - 54	55 - 70	71 - 87	88 - 100

#### Higher level internal assessment

##### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 3	4 - 6	7 - 12	13 - 17	18 - 21	22 - 26	27 - 30

#### 提出された成果物の特徴および適切さ

写真と録音のアップロードに RM Assessor を使用したが、ほとんどの学校が問題なくできていた。個人面接の手順は、ほとんどの学校が正しく行われていた。しかし、数校ではあるが、the instructions in the Language B Guide を読んでいないと思われる学校もあり、一般的な質問が含まれていた。

時間配分：制限時間は **Par 1** が 3～4 分で、**Part 2** が 5～6 分である。全体的にはよくできていた。しかし、数校ではあるが、**Part 1** のプレゼンテーションが 4 分を越えるなど、制限時間 10 分を大幅に越える面接も見られた。そう言う場合は、教師が時間を告げ、ストップさせるべきである。そうしなければ、**Part 2** の時間も奪うことになる。試験官は 10 分に達するまで審査し、それ以上の時間は審査しないように決められていることを再確認して頂きたい。

写真の適切さ：The instructions in the Language B Guide によく従い、ほとんどの写真と録音が正しく提出されていた。しかしながら、日本文化に全く関係のない写真も数例含まれていた。

キャプションの適切さ：ほとんどの場合、写真には適切なキャプションが付けられていた。不適切だったキャプションとは、(i) 短過ぎて、受験者のプレゼンテーションに不利になるもの、(ii) 極端に長くて、プレゼンテーションの範囲を複雑にするか、それを制限するものであった。最適なキャプションとは、意味深長な文であったり、または言葉巧みな疑問文である。また、キャプションが全くない例も数例見られた。

プレゼンテーション：写真についての大部分のプレゼンテーションは構成がしっかりとできていた。しかし、少数ではあるが、準備不足が見られるプレゼンテーションもあった。ほとんどの受験者は、自分の考えを十分に説明できた。教師は受験者に、写真の説明に費やす配分と日本文化と関連づけた自分の考えを述べる配分の釣り合いを熟考するように、十分にアドバイスをして頂きたい。

教師の質問のテクニック：ほとんどの教師が明確で、簡潔で、受験者の支えとなる質問をし、効果的に受験者の反応を導き出していた。しかし、少数ではあるが、(i) です、ます調になっていなかった例や、(ii) 一般的な質問をする例も見られた。これらは、避けるべきであった。

## 評価規準に基づく受験者の到達度

### Criterion A: Productive skills

ほとんどの受験者は、Part 1 のプレゼンテーションと **Part 2** のディスカッションにおいて、ほぼ問題なく首尾一貫した会話を維持し、楽に日本語を話すことができた。受験者の多くは、時折、間を置きながらも、流暢に日本語を話すことができた。

一方、低いレベルの受験者は、質問を理解することができなかつたり、基本的な考えさえ表現することが困難だった。しかし、低いレベルのパフォーマンスでは、話すスピードが遅かったり、人一倍苦労している面も見えたが、最後には綺麗にスピーチをまとめることもできていた。

受験者の多くは、文または語彙の用法の若干のミスを犯しながらも、ほとんどの場合、そのようなミスはスピーチ全体にあまり影響を及ぼさなかった。全体的に、語彙の幅が広く、日本文化の専門的な面の単語まで知ってる受験者が多かったのは、非常によかった。ほとんどのミスは明らかに受験者の第 1 言語の影響によるものだった。

日本語の発音とイントネーションに関しては、全体的に正しくできていた。しかし、一つの単語の発音のミスで、意味をなさないケースも若干見られた。

### Criterion B: Interactive and receptive skills

ほとんどの受験者は、Part 1のプレゼンテーションは明白に表現する力を持っていた。しかし、もう少し準備時間を増やし、アプローチ方法を熟考して頂きたい。

プレゼンテーションを十分に準備し、冒頭に概要を説明できていた受験者のグループと、準備不足だったグループの間には、明らかな差が見られた。プレゼンテーションは、受験者が内容を構築し、十分に準備する必要がある。

十分な準備がプレゼンテーションのアプローチ方法を成功させる。受験者が使う文章の長さ、内容の深さにより、受験者がどのようなアプローチ方法を取ろうとしているかは、受験者によりいろいろなバリエーションが見られた。教師は、受験者にプレゼンテーションの主旨を明らかにさせ、その主旨に基づいた考えを膨らませ、そして、プレゼンテーションを効果的に組み立てて行くように導かなければいけない。

Part 2の教師との対話において、ほとんどの受験者はうまく会話に参加することができ、敏速に、かつ適切に、質問に答えることができた。受験者の多くに、正しく、完全な文章で答えようとする姿が見られた。最高のパフォーマンスには、受験者のある程度の精神的な機敏性が見られた。そう言う受験者は常に自分の考えを持っており、内容が深く複雑な答えで答えることができた。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. 第2言語の学習者は母語の影響から起こるミスをよくします。そのような癖は本人が思う以上に深く根付いています。ですから、そのようなミスはその都度、その都度、直してあげてください。
2. Part 1は3～4分、Part 2は5～6分の制限時間を守ってください。
3. Language B Guideに従い、日本文化に合った写真を選んでください。
4. Part 2では、教師ははっきりした短い質問をし、受験者が簡単に、かつたくさん話せるように心掛けてください。
5. 必ず、日本文化の要素を含めてください。
6. この試験評価規準を、普段のクラスの中のオーラル・アクティビティーに取り入れて使ってください。
7. 一般的な質問はしないでください。

## Standard level internal assessment

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 3	4 - 6	7 - 12	13 - 17	18 - 21	22 - 26	27 - 30

### 提出された成果物の特徴および適切さ

ほとんどの試験が Language B Guide で定められた時間配分にもとずいて行われていた。しかし Part 1 および Part 2 の時間配分が適切ではない録音も聞かれた。

Part 1 の発表はほとんどの受験者が適切にすることが出来ていた。Part 2 では積極的に会話に参加したサンプルもあったが主に教師の質問に答える形式で行われたものが 目だった。

教師の言葉使いが口語体で非常にくだけているサンプルがいくつかあった。

写真の詳細な描写、および学習したオプションに的確に言及できた優れたサンプルもいくつかあった。

アップロードされたキャプションが小さくて完全に判読できないサンプルも見受けられた。

### 評価規準に基づく受験者の到達度

#### Criterion A: Productive skills

ほとんどの受験生はいろいろな語彙、表現および文型を使用し聞き取りやすい発音で述べることができていた。

Part 1 : 写真をよく描写できているサンプルが多く見られた。自分の意見、理解を取り上げているサンプルも聞かれた。

Part 2 : 教師の質問に答えるだけで終わっているサンプルも見受けられた。

#### Criterion B: Interactive and receptive skills

ほとんどの受験生が教師との受け答えを適切にこなしていた。他の文化の視点も取り上げているサンプルが今回は多く聞かれた。自分の見解、意見またトピックに応じた知識を明確に教師へ伝えることが出来ているサンプルも多々聞かれた。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. **Part 2** : 受験者がよりはっきりと述べる事が出来るような効果的な質問の仕方をしてください。
2. 定められた時間配分 **Part 1** : 3-4分 および **Part 2** : 5-6分 での **IA** をお願いします。
3. **IA** は 口答試験という状況からくだけた日本語は適切ではありませんので気をつけてください。です、ます体 が望まれます。
4. 学校の放送、他の生徒の会話、メモの音などが入らないように気をつけてください。
5. 一般的な質問 (例えば どの大学へ行きますか、将来についてなど) は避けてください。

## Higher level written assignment

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 4	5 - 8	9 - 12	13 - 15	16 - 17	18 - 20	21 - 24

## 提出された成果物の特徴および適切さ

去年度に比べ、多種の原作が取り上げられていたうえ、内容もしっかりしていた **WA** が多く、読んでいて、おもしろかった。ラショナル内の説明で、原作の内容を受験者自身の世界とつなげて考える姿勢が見られ、非常に興味深かった。

## 評価規準に基づく受験者の到達度

### Criterion A: Rationale and Task

**Criterion A** で自分が書いている文章のテキストタイプや目的を紹介するのは、ほとんどの受験者が注意して書いていた。目的でときどき感じたのが、「この **WA** を読んだ結果、読者にどんな視野や感想を持ってほしいのか」という点を意識して書くと、もっと充実した内容が書けるのではないかということだった。例えば、登場人物 **X** の立場から日記を書くのでその人物の気持ちをもっとよくわかる、という **WA** がよく出てくるが、どうしてこの登場人物の気持ちをより深く探りたいのかがはっきりしない例が多かった。原作の紹介の書き方はまだ

充実していない。特に「坊ちゃん」の紹介などで、「清がやさしかったので」と書いてあるが、清がだれなのかという紹介がなかったりするケースが目立った。

### Criterion B: Organization and Development

ほとんどの受験者が内容をふくらませて書いていて、良かった。思いついたことから書いていくのではなく、WAの全体に計画性をもって、導入もしめくりもある、構成のしっかりしたWAにまとめてほしい。

### Criterion C: Language

ほとんどの受験者が適切かつ幅広い文型や語彙を使っていて良かった。コンピューターで打っているので漢字も多く使われていて、読みやすいWAが多かった。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. 書き始めるまえに構成を考え、しっかりと計画を立ててからWAを書く作業に取り組んでほしい。
2. 一番重点を置くべきところは Criterion A (Rationale) で、字数ぎりぎりまで詳しく書くこと、原作の内容を必要な部分に焦点をあててしっかり書くこと、目的を詳しく、はっきり説明することに注意させてください。
3. 今後もこのタスクに適する文学作品をいろいろ探し出し、他の教師とアイデアを話し合ってください。

## Standard level written assignment

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 3	4 - 7	8 - 11	12 - 14	15 - 17	18 - 20	21 - 24

## 提出された成果物の特徴および適切さ

去年度と同様に、生徒が積極的に取り組んだ姿勢が生き生きと伝わり、読んでいて非常に楽しかった。今、日本で何が話題になっているか、問題になっているかについてよく調べて書いたものがほとんどで、興味深いトピックが選ばれていた。自分が興味を持ったテーマを選んで、それを一つの作品にまとめていくのが非常に有意義な学習になっていたことがうかが

えた。基準はある程度簡単なものから非常によく書けているものまであった。テキストタイプとしてはブログ、手紙、新聞記事、パンフレット、日記など様々だったが、今年はブログが全体的には多い印象を受けた。

## 評価基準に基づく受験者の到達度

### Criterion A: Rationale and Task

まずは要求されている必要事項が全部含まれているか注意して書いてほしい。ほとんどの場合目的は書いてあったが、目的がテキストタイプと一致していなかったり、参考資料の紹介がなかったりしたケースがあった。参考資料に関しては、「記事を読みました」と書くだけでなく、その内容やどうやって WA 内で使ったのかなどを、字数が許す範囲で詳しく書いてほしい。

### Criterion B: Organization and Development

ほとんどの WA に段落があり、良かった。全体的な導入とまとめの文（または段落）がない WA が目立ち、全体的な構成を考えて書けばよりよい WA が書けたはずだ。インタビューなどのテキストタイプを選んだ場合は、充分した発展があるように心がけてほしい。

### Criterion C: Language

語彙面ではほとんどの受験者が専門用語も含めて、必要な知識をもっていた。文法の面では難しい文型をたくさん一生懸命使っている例から、非常に簡単な文にもミスが多くあった例まで幅広かったが、全体的には無理に難しいことを書こうとしないで、自分の実力範囲で力を出し切って書いていた WA が効果的だった。簡単な文でも助詞などに間違いがあり、読みにくくなってしまった WA もいくつかあった。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. 書き始めるまえにどのような内容を含めるのかをしっかりと考え、構成を立ててから書き始めるように指導してください。特に読み手に伝えたいポイントは何なのか、何の目的で、なぜそのテキストタイプを選ぶのかということの日頃から意識しながら文章を書くといいでしょう。
2. この課題では趣旨の書きかたが一番難しいので、趣旨の書きかたを丁寧に指導してください。資料説明、目的、その達成方法といった必要事項を徹底させるべきです。今回は、受験者が知っておくべき情報がしっかりと伝わっていなかったために、努力して課題に取り組んだにもかかわらず大幅な減点を課せられるケースが多くありました。評価基準を受験者に熟知させる必要があります。また、趣旨の長さがほぼ400字ぎりぎりになっていなければ、内容が薄すぎ、高得点は取れないだろうと受験者に説明してもよいでしょう。
3. イラストや写真を入れたり、デザインを考えたりと、非常に楽しいものも多くあったが、これは読み手にとってはうれしいものの、得点にはつながらないので、このような作業には2時間以上はかけないように指導してください。また、写真やイラストをインターネットからとってきた場合の著作権問題についても考えさせてください。

い。

4. インタビューなどのテキストタイプを使っている場合は、十分な発展があるように注意させてください。簡単な質疑応答ばかりになっていて、流れはあるものの、発展がうすかった WA がいくつか目立ちました。
5. 自分が読んで意味の分かる漢字や、語彙を効果的に使いながら、筋道だった文章を書く練習を日頃からすることが上達につながるでしょう。
6. Ab initio のタスクと混乱してしまったのだろうが、日本の文化と自国の文化を比較して書いてある WA がいくつかあった。B SL レベルのタスクは違うので、注意が必要です。
7. 読み手の視点に立ち文章を読み直し、自らの考えや主張が明瞭に書かれているか確認する力をつけてください。

## Higher level paper one

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 9	10 - 18	19 - 30	31 - 38	39 - 47	48 - 55	56 - 60

### 今回の試験で受験者にとって難しかった内容

全体を通して、非常に良く出来ていたが、他の問題に比べると、問題 C の「正誤問題とその理由」を間違えた受験者が多かった。

### 今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

全体を通して良く出来ていたが、理解を確認する自由回答質問と選択肢問題や、本文から同じ意味の言葉を探す問題を良く準備していた。

### 設問ごとの解答結果（強みや弱点）

問題 A には、「海、森林、山、田など」と同じ意味の言葉を本文中から探す問題があるが、「自然」という正解ではなく、「牧場」を選んだ生徒がいた。その他の読解問題は良く出来ていた。



問題 B は、段落のまとめが良く出来ていた。反対に、語彙の少なさが間違えにつながっていた。「食品以外のフェアトレード商品には何があるか」という問題で、「食品以外」という言葉を読み違えた受験者がいた。また、「先進国」、「途上国」などの言葉を知らないのではないかと思われる間違えがあった。

問題 C は、正誤問題を間違えた受験者が多かった。また、「どんな人」か、「目的は何か」という質問に適切に答えていないケースが目立った。

問題 D は、「ケイ氏が研究をしていること」と「ケイ氏に色々質問してみた」は違うが、『「」みました』がどんな意味か理解していない受験者も少なからずいた。また、読解の選択肢問題も少し難しかったようである。

問題 E は、「どこで」、「どうやって」などの簡単な問題は良く出来ていた。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

コンテキストの中で語彙の意味を推測すること、また語彙を増やすことが大切です。さらに、質問を良く読み、適切に答える習慣をつけると良いと思われます。

## Standard level paper one

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 5	6 - 10	11 - 14	15 - 23	24 - 31	32 - 40	41 - 45

## 今回の試験で受験者にとって難しかった内容

受験生によっては、読むスピードが遅く、全部の問題をこなすことができなかった受験生もいた。

## 今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

食べ物など身近なテーマは比較的良好にできているようで、最後の問題 D も時間切れにならずがんばって答えていた受験者が多かった。

## 設問ごとの解答結果（強みや弱点）

問題 A はロボットが科学博物館で活躍しているという問題だった。短文問題の 1-3 はほとんどの受験生が答えを書いていたが、3 番でよく間違った答えがでてきていた。4-6 番の正しい文章を選ぶ問題は比較的よくできていた。5-8 番の正しい・正しくない、また理由を書く問題は 5 番が難しかったようで、「正しくない」を選んだものの、それに適した理由を挙げるのできる受験生は多くなかった。

問題 B は高校生がお年寄りと文通している内容だったが、9 番から 11 番の短文問題はあまり問題がなかった。12 番から 15 番は抜けている接続詞や助詞を入れる問題だったが、特に最初の 12 番、13 番が難しかったようだ。16 番から 19 番の 4 択問題は 16 番が比較的簡単だった。18 番は全体的に読んだ状況を把握しなければならなかったので、比較的むずかしかったようだ。

問題 C は高校生が小学生のために、科学を好きにさせるいろいろなアイデアを考えたという文章だった。20 番から 23 番は穴埋め問題だったが、21 番のアイデアは非常に簡単で、23 番のあげる・もらうが難しかったようだ。また、22 番は動詞が必要だと分かっていたものの、「配りました」を間違えて選んだ受験生も多かった。漢字の知識が足りなかったということだろう。24 番から 27 番の題名を段落と結びつける問題は多くの受験生がしっかりできていた。28 番から 31 番の 4 択問題も上手にできていた。

問題 D はいろいろな人の和食に関する意見や体験談だった。32 番から 35 番の文の前半と後半をつなげる問題は特に問題なかったようだ。36 番から 39 番は定義にそった言葉を本文の中から選ぶものだったが、いつもごとく、この種類の問題は非常に難しいようだ。特に 39 番には「やわらかくて」という誤解がよくあった。最後の 4 択問題（40 番から 43 番）も比較的よくできていたが、問題 C と D をほぼ全部空白にしていた受験生も目立った。量が読みこなせない場合は、よい試験対策だと思われる。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. 言葉の定義を日本語で考えることが難しいようなので、日ごろから教室活動として練習するとよいでしょう。また、語彙を増やす活動や語彙の覚え方を授業中に教えたり、生徒が話しあってアイデアを出しあう機会をもうけてもよいでしょう。
2. 毎年書きますが、「正しい・正しくない」、そして理由を書く問題は両方書かないと点にはならないことを受験生にしっかり伝えてください。
3. 接続詞や助詞の穴埋め問題ももっと練習するとよいでしょう。
4. 読む量を時間内でこなせそうにない受験生に関しては、あらかじめ時間配分などの試験対策を話し合っておくとよいでしょう。特に全部を慌てるより、点がとれそうな問題 A、問題 B に時間をたくさんかけたほうがいいのかなどをあらかじめ教師と一緒に考えておくといよいでしょう。

## Higher level paper two

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 8	9 - 16	17 - 24	25 - 30	31 - 36	37 - 42	43 - 45

### 今回の試験で受験者にとって難しかった内容

全体を通して特に難しかった内容はなかったようだが、問題に書かれてあった以上の内容を自分でしっかり考えて書く力が少し足りなかった文章がいくつか見られた。

### 今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

複雑な文型や語彙、漢字をたくさん使って書こうとしている姿勢が見られて、よかった。

### 設問ごとの解答結果（強みや弱点）

1 番の問題はお年寄りで言葉を忘れはじめているおじいさんと写真を見た思い出を友だちに伝えるメールだった。自分の複雑な気持ちが強く書き表されている文章がいくつかあり、心を打たれた。また、思い出話も、私が幼かったころ、いっしょにアイスクリームを食べていて、私がアイスクリームを落として泣いていたらおじいさんがもう一つ買ってくれた、という話が一番多かったが、もっと創造力を活かしてユニークな話を考えた受験生も何人かいて、非常によかった。

2 番のゴールデン・ウィークの問題はあまり人気がなかった。どちらかというと、一般的なゴールデン・ウィークの紹介になっていて、留学生の立場からというポイントが考慮されていない文章が多かった。

3 番のレシピのアプリを紹介する問題は非常に人気があった。上にも書いたが、料理がおいしい、体にいい、材料が安いというポイントをくりかえすだけの内容の文章がいくつかあり、残念だった。一番よく書けていた受験生は例えば、近くのスーパーのポイントがもらえる、だとか、材料の安売りを毎日アプリ内で紹介している、などちょっと変わったアイデアを含めて書いていた。

4 番も同じく、友だちがおもしろいゲームに夢中になってしまっ、大変なことになった、というポイントだけを書いているインタビューが目立ち、下級生へのアドバイスだとか、家族に迷惑をかけてしまって反省している、というような内容を工夫して書いている文章は少なかった。インタビューの形式はよく書けていた。

5 番のお金を使わない世界についてのテーマを選んだ受験生は、このテーマについての知識や興味があったからこそこのテーマを選んだようで、専門的なアイデアや用語を使って、現金のない世界を上手に説明していた。経済面でのある程度詳しい知識などが含まれていて、読んでいて説得力もあり、納得がいく文章が多かった。

第二部の小学生が携帯を持つべきではない、という問題に関してはほとんどの受験生がある程度詳しく賛成や反対のコメントを書けた。しかし、良い点と悪い点の両方を評価して書くようとしているので、結局自分の意見が伝わらない場合があり、残念だった。Marking Criteriaを見ると、一番上の太字のところに「the argument is convincing」とあるので、やはり、「逆の観点もちろんあるが、自分は 000 と思う」とはっきりさせないと、高得点にはつながらない。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. 問題に書いてある以上の内容を自分でいろいろ考えて、深く、細かく、欲を言えばおもしろく書くように指導してください。
2. 複雑な語彙、漢字、文型をいろいろ使って書こうという姿勢が見られて非常によかったので、今と同じように指導を続けてください。
3. 第二部では、たしかに両方の観点を考慮するのはよいが、それに字数を使いすぎてしまわないように注意させてください。自分の観点がしっかり伝わらなければ、高得点にはなりません。

## Standard level paper two

### Component grade boundaries

<b>Grade:</b>	1	2	3	4	5	6	7
<b>Mark range:</b>	0 - 3	4 - 6	7 - 9	10 - 13	14 - 18	19 - 22	23 - 25

### 今回の試験で受験者にとって難しかった内容

受験生の大多数が難しいと考えた部分はなかったようだ。

### 今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

どのレベルの受験者も幅広い語彙や文型を文章の中に取り入れようとする積極的な姿勢が感じられた。また、文章が不明瞭で作品全体を通して書き手の伝えたいことが理解できないと

いう作品も少なかった。Paper 2 で出題されるテキストタイプに対して十分な対策を取って、全体的にどの課題に対してもうまく対応していた。特にブログや E メールなどは、普段の生活でやり慣れているせいや形式も文体も自然なものが多かった。

## 設問ごとの解答結果（強みや弱点）

1 番は大学を卒業してから日本で働くという内容の問題だった。日本に引っ越して日本に住む、という内容は詳しく書いてあったが、日本で働くという点についてはそれほど詳しく書かれていない文章が目立った。また、問題には良い点も悪い点もある、と書いてあったが、どちらかに偏りすぎていた文章も多かった。一方で、日本の勤勉性や労働文化など授業で学んだと思われる知識を応用させた、内容の深いものもあった。

2 番の学校制服に関する問題は多くの受験生が授業で話しあったり、作文を書く練習をしてあったりしたようで、非常によく書けていた。

3 番の一日二十分の運動を呼びかける問題は、一般的な「健康的な生活」という文章になってしまっていた場合が多かった。特に、食生活のことがいろいろ書いてあったり、一週間に2、3回運動すると体によい、という内容になっていて、問題に設定されていた一日二十分、気軽に運動しようという「勧誘」の要素が欠けているが多く、残念だった。その活動にみんなも参加してほしいというテキストタイプのパンフレットに関しては、「知らせる」という要素が欠けているために読み手にとって必要な情報が見てすぐにわかるようなパンフレットらしい工夫がほとんどなかった。

4 番は世界のおもしろい乗り物の写真展についての文章だったが、乗り物という単語が分からなかったり、写真という単語が分からなかった受験生が多かったようで、しっかりした内容が書いてあった文章はごく少数だった。

5 番は大学生といっしょにいなかへ行って自然観察をしたという内容だった。この問題を選んだ受験生は多くなかったが、選んだ受験生はある程度の知識を持っているようで、「森の生き物を守る」「森の生き物を調査する」の部分について、授業で学習したことをうまく取り込みながら書いていた。大学生といっしょに活動して有意義だった、という面について書いた受験生はほとんどいなかった。学校の新聞記事というテキストタイプもかなり定着しているようで形式や文体もしっかり工夫して書けていた。

## 今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. Paper 2 では課題を正確に読めるかどうか、という点が成績に大きい影響を及ぼしています。言語能力の高いと思われる受験生でも課題で求められている事柄に触れなかったため大幅な減点を受けるケースがありました。課題文の中の重要だと思える語句を基に課題で求められている事柄の分析する力を養ってください。また、問題に「乗り物」や「写真展」など、意味がはっきりわからない単語があった場合は、その問題を避けたほうがいいかもしれないと受験生と話しあってください。
2. 問題に書いてある内容をしっかり読んで、何が要求されているのか詳しく読み取ってから、文章の構成を考えて、それから書き始めるように指導してください。

3. 授業で学習したトピックと類似したトピックがあった場合、学習した知識や語彙、文法を自然な形で応用する練習が必要です。授業で学習した内容をことを当てずっぽうに書き並べるだけでは、高得点につながらないだろうということを分からせてください。